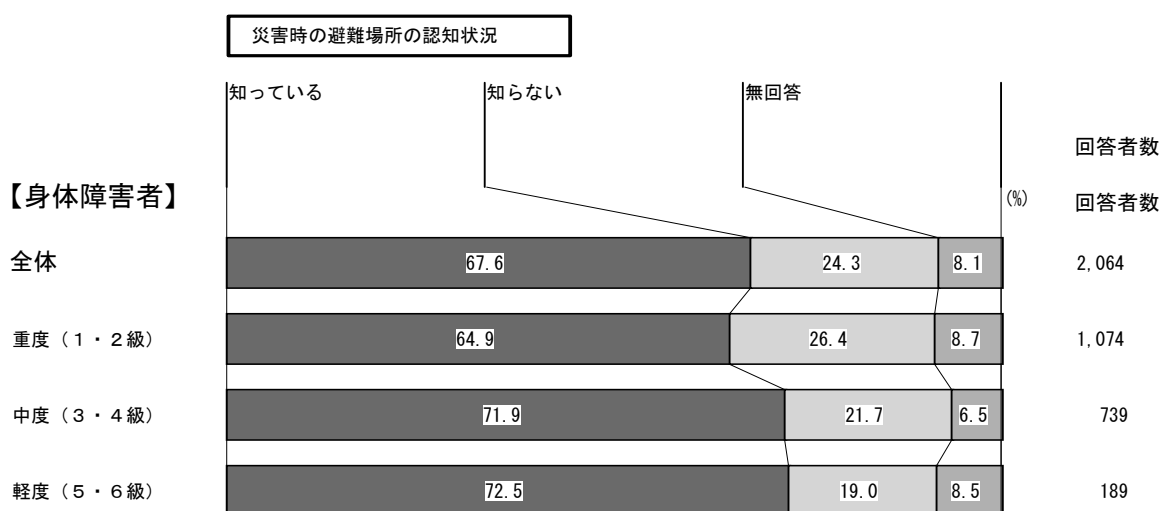


12 災害対策や消費者被害について

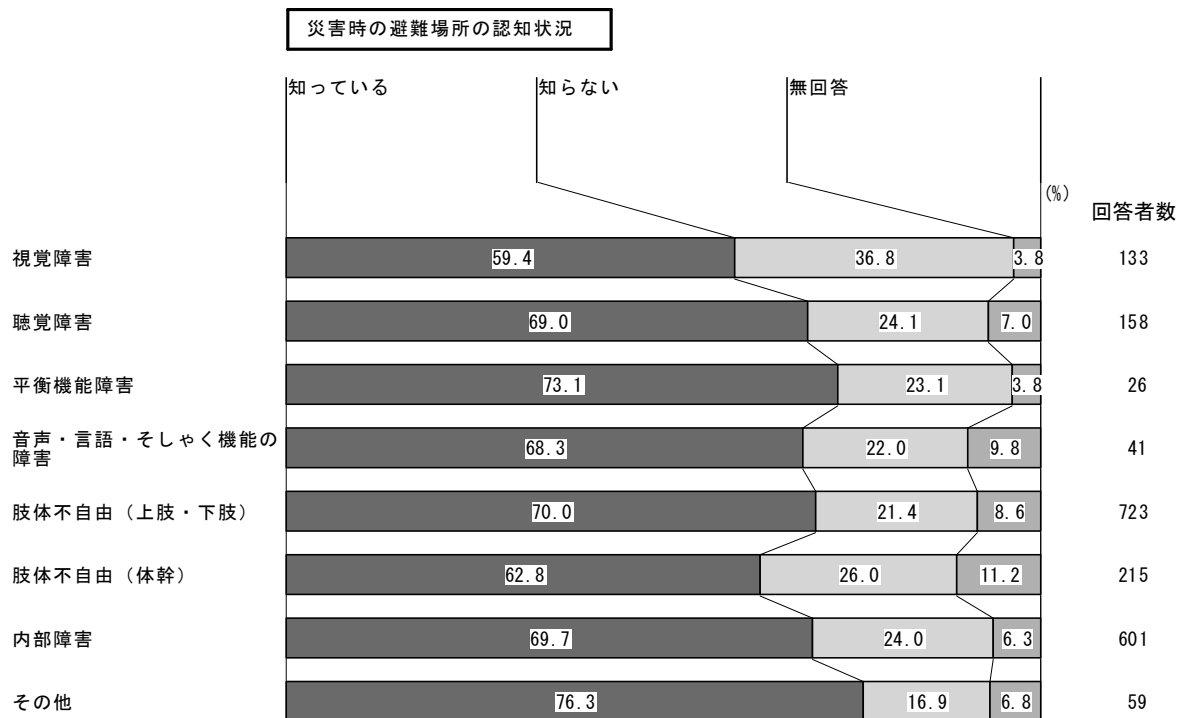
(1) 災害時の避難場所の認知状況

災害時の避難場所を知っている人の割合は、身体障害者では 67.6%、知的障害者では 54.3%、精神障害者では 50.5%である。

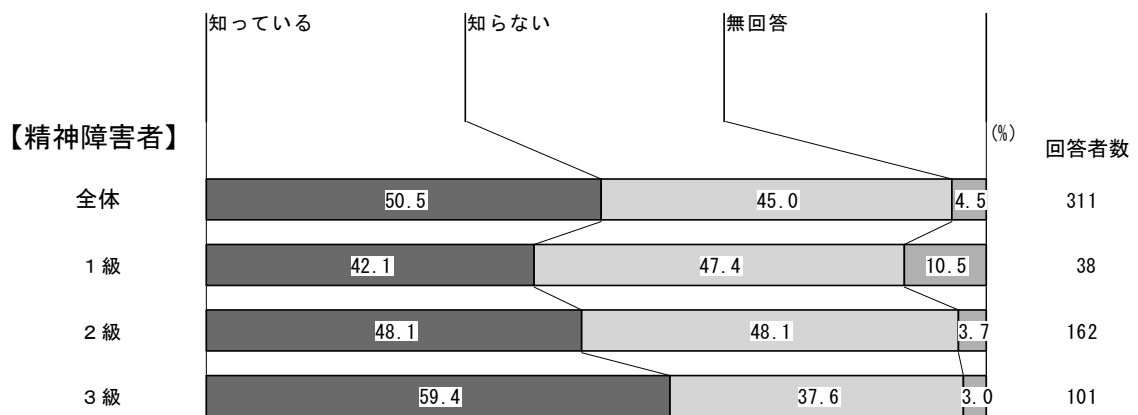
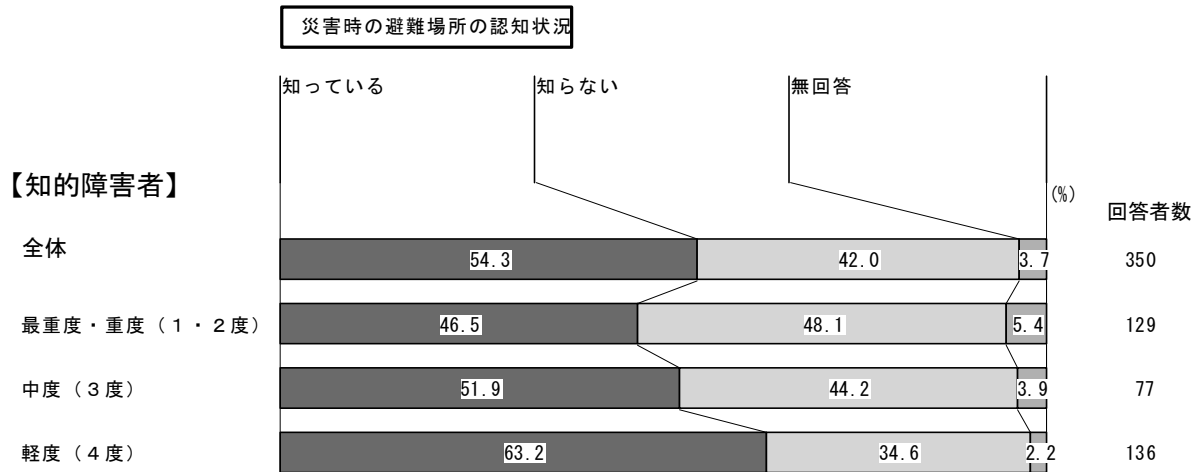
身体障害者では、「知っている」人が 67.6%である。
 障害の程度別にみると、重度(1・2級)では、やや少ない。



障害の種類別でみると、視覚障害の人では「知っている」人が59.4%と少ない。



知的障害者では、災害時の避難場所について、「知っている」人が 54.3%、精神障害者では、「知っている」人は 50.5%であり、約半数の人が知らない。
 知的障害者、精神障害者ともに、障害の程度別でみると、程度が重いほど、認知割合は低い。

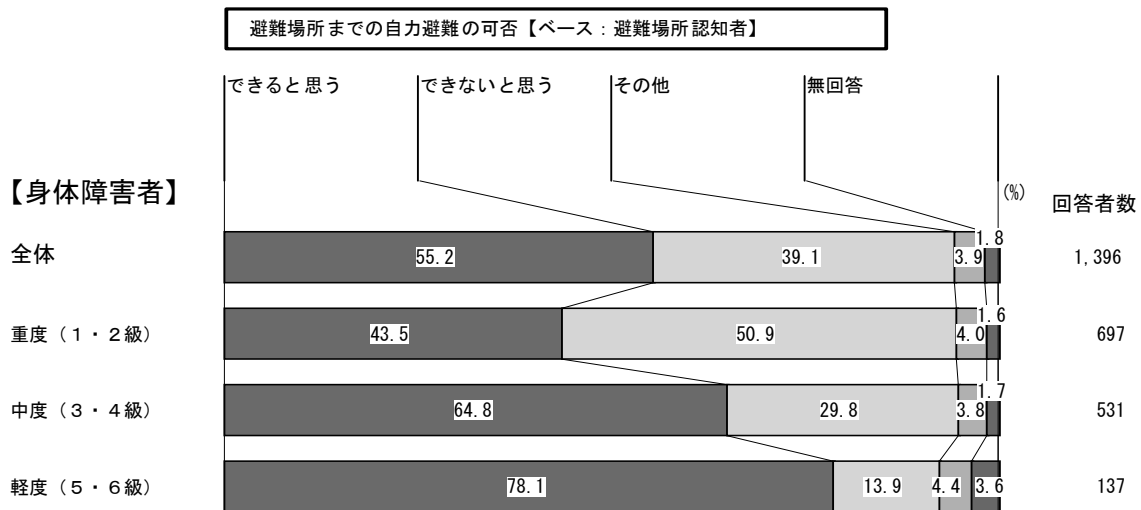


(2) 避難場所まで自力避難の可能性

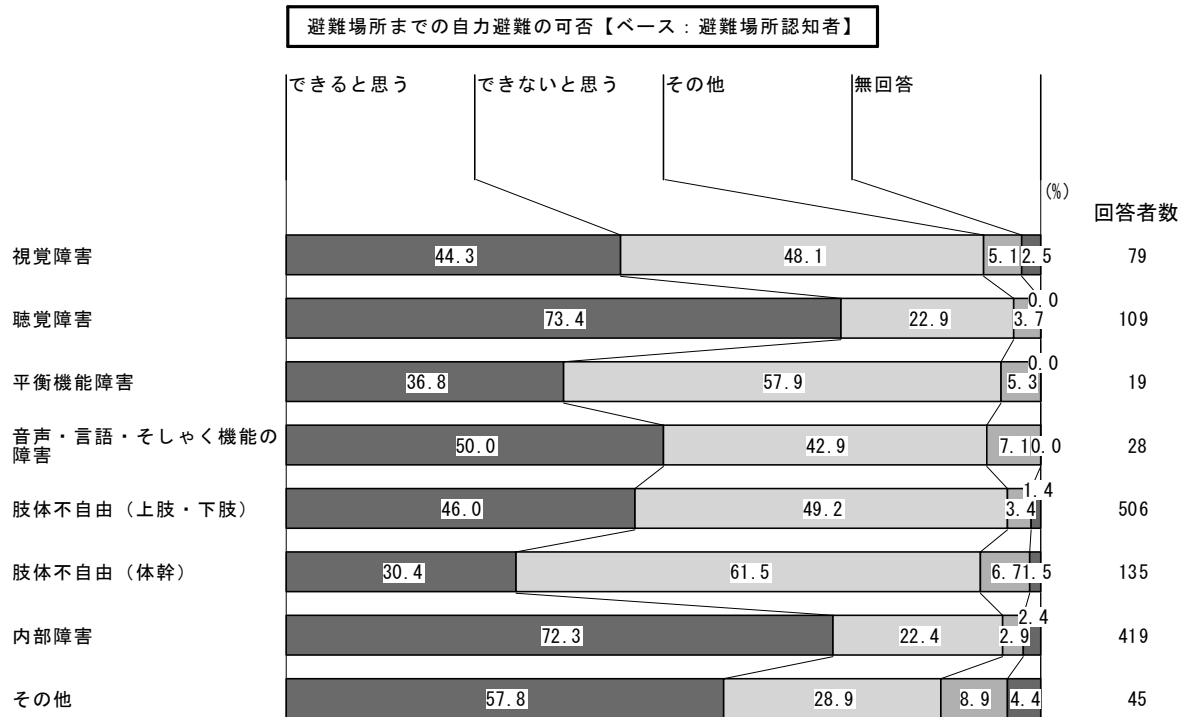
災害時の避難場所を知っている人のうち、自力で避難できると思う人の割合は、身体障害者では55.2%、知的障害者では52.6%、精神障害者では69.4%である。

災害時の避難場所を知っている人に、避難場所まで自力で避難できるかをたずねたところ、身体障害者では、自力避難が「できると思う」人の割合は55.2%である。身体障害者のうち、避難先を知らない人も含め、約6割の人は何らかの支援が避難に必要と考えられる。

障害の程度別でみると、避難場所を知っている人のうち、自力避難が「できると思う」人は、程度が重くなるほど少なく、重度(1・2級)で43.5%である。



障害の種類別でみると、避難場所を知っている人のうち、自力避難が「できると思う」人の割合は聴覚障害、内部障害で7割以上と多い。

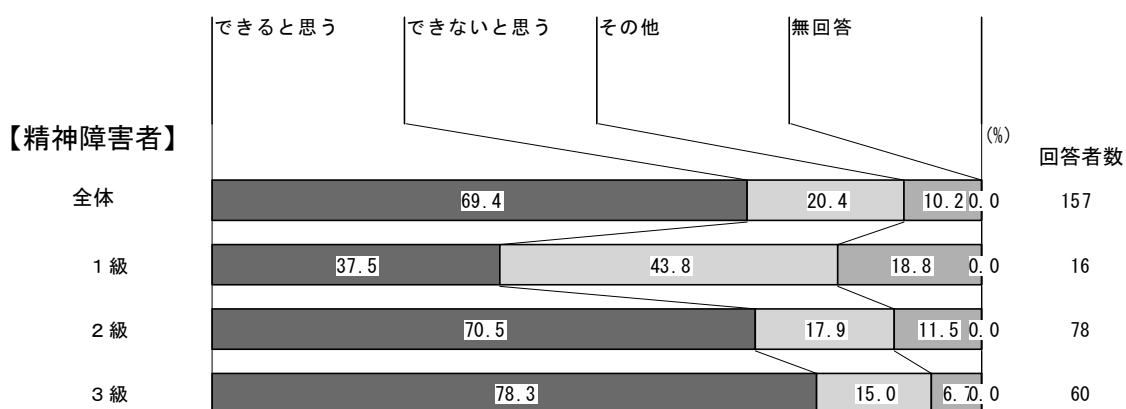
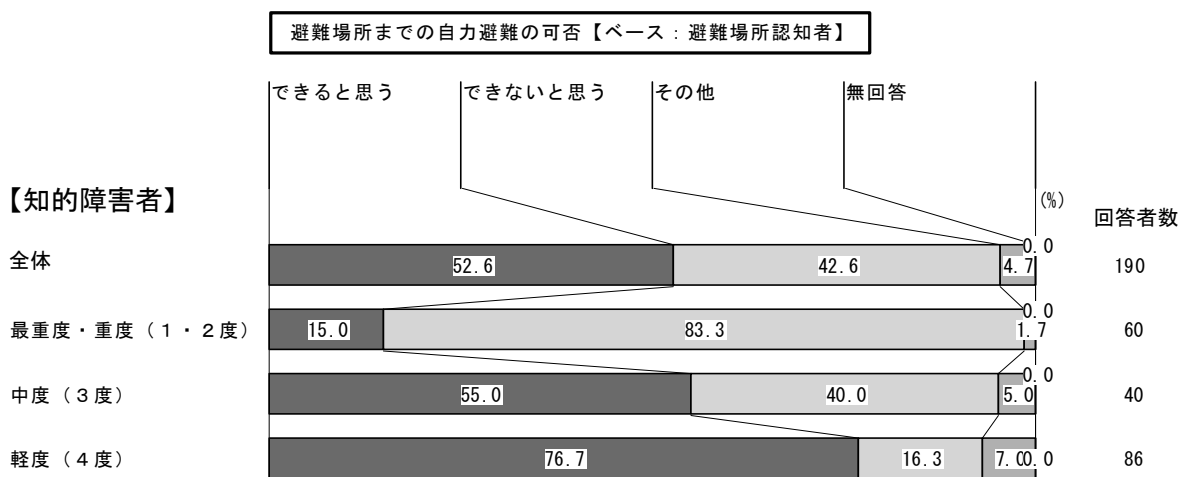


知的障害者では、自力避難が「できると思う」人の割合は 52.6%である。知的障害者のうち、避難先を知らない人も含め、約7割の人は何らかの支援が避難に必要と考えられる。

障害の程度別でみると、避難場所を知っている人のうち、自力避難が「できると思う」人は、程度が重くなるほど少なく、最重度・重度(1・2級)で 15.0%である。

精神障害者では、自力避難が「できると思う」人の割合は 69.4%である。精神障害者のうち、避難先を知らない人も含め、6割強の人は何らかの支援が避難に必要と考えられる。

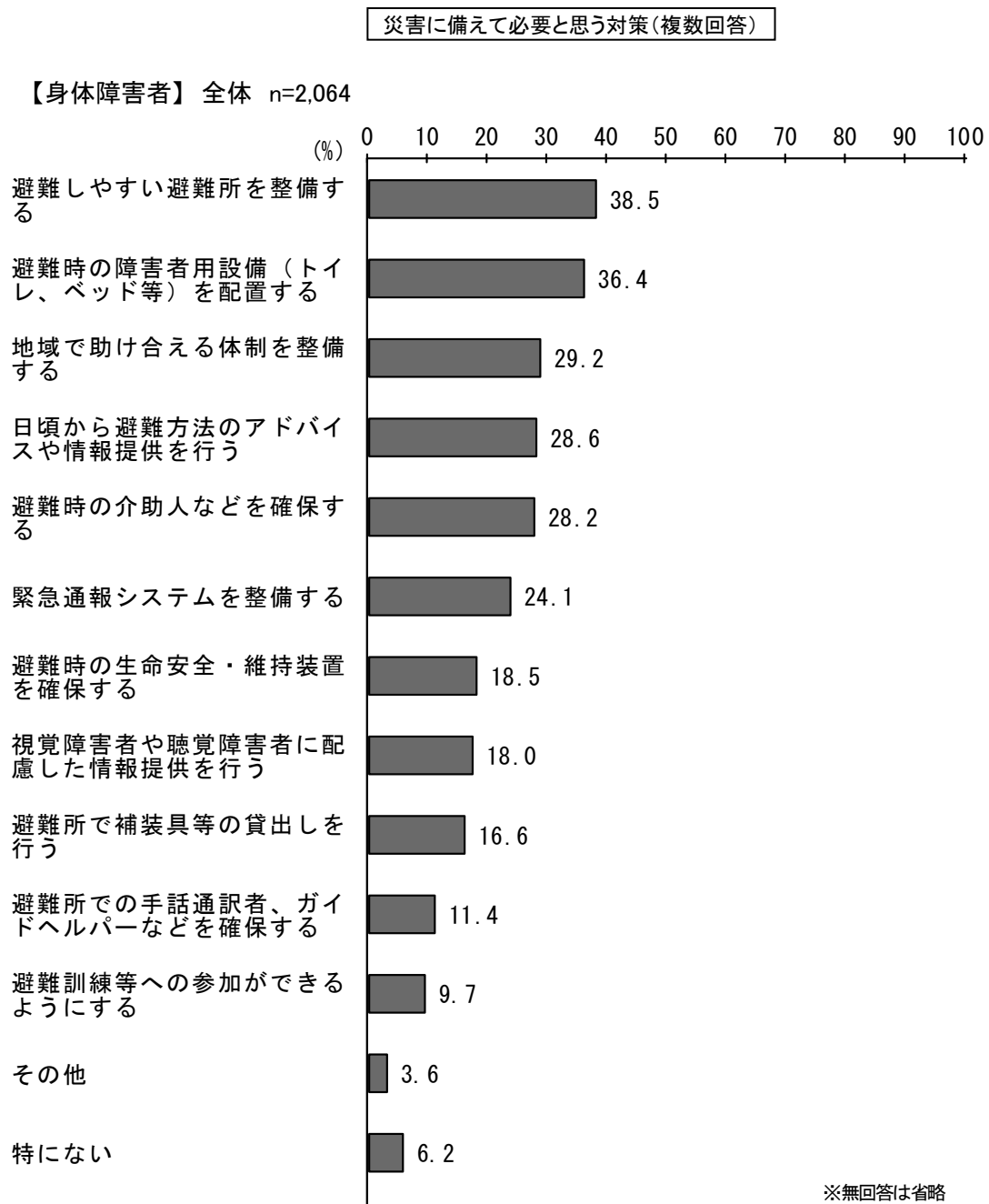
障害の程度別でみると、避難場所を知っている人のうち、自力避難が「できると思う」人は、程度が重くなるほど少なく、1級では 37.5%である。



(3) 災害に備えて必要と思う対策（複数回答）

災害に備えて、または災害時に必要な対策としては、身体障害者、精神障害者では「避難しやすい避難場所を整備する」ことをあげる人が最も多く、知的障害者では「地域で助け合える体制を整備する」が最も多い。

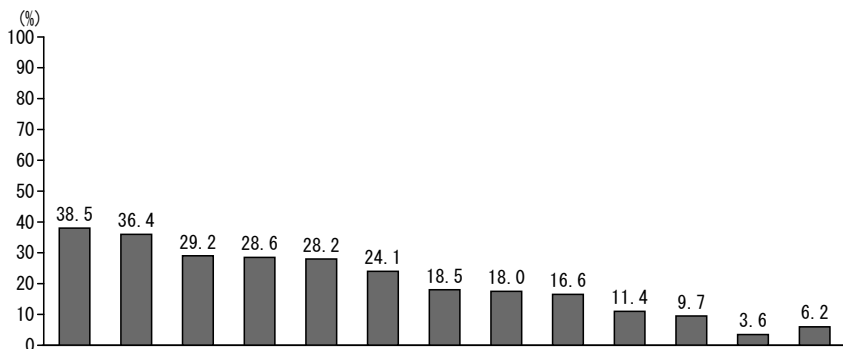
身体障害者では、「避難しやすい避難場所を整備する」ことをあげる人が 38.5%と最も多く、次いで「避難時の障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する」(36.4%)、「地域で助け合える体制を整備する」(29.2%)と続いている。



災害に備えて、または災害時に必要な対策について、障害の程度別にみると、重度の人では、「避難時の介助人などを確保する」(34.4%)、「避難時の生命安全・維持装置を確保する」(24.9%)も多い。

災害に備えて必要と思う対策(複数回答)

【身体障害者】全体 n=2,064

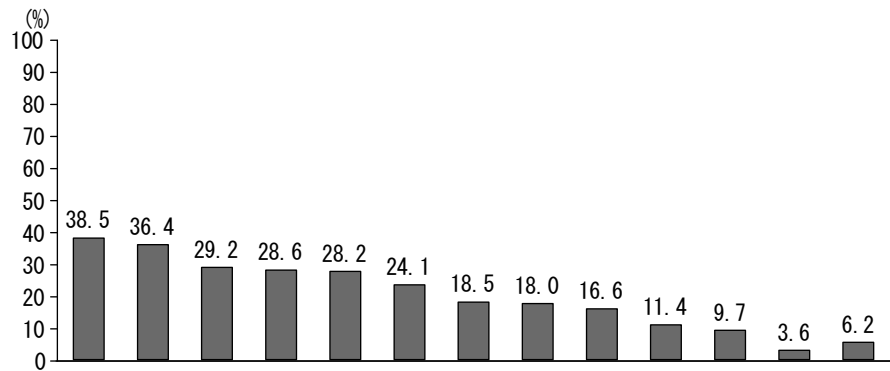


* 問6 障害の程度	n	1	6	5	3	9	4	7	8	11	10	2	12	13
		避難しやすい避難所を整備する	避難時の障害者用設備(トイレ、ベッド等)を配置する	整備する	地域で助け合える体制を整備する	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	避難時の介助人などを確保する	緊急通報システムを整備する	避難時の生命安全・維持装置を確保する	配慮した情報提供を行う	視覚障害者や聴覚障害者に避難時の情報提供を行う	避難所で補装具等の貸出しを行う	避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する	避難訓練等への参加ができるようにする
0 全体	2,064	38.5	36.4	29.2	28.6	28.2	24.1	18.5	18.0	16.6	11.4	9.7	3.6	6.2
1 重度(1・2級)	1,074	39.6	39.0	30.2	28.3	34.4	26.3	24.9	18.2	15.8	13.2	10.0	3.9	4.7
2 中度(3・4級)	739	38.6	36.0	28.8	29.0	21.9	22.7	11.2	14.6	18.3	8.5	9.6	3.2	7.7
3 軽度(5・6級)	189	37.0	24.3	28.6	29.6	20.1	21.7	11.1	31.2	15.3	13.8	8.5	2.6	9.0

障害の種類別にみると、視覚障害と聴覚障害の人では、「視覚障害者や聴覚障害者に配慮した情報提供を行う」(54.9%、49.4%)が最も多い。肢体不自由(上肢、下肢)の人では、「避難時の障害者用設備を配置する」(45.9%)が最も多く、内部障害の人では、「避難しやすい避難所を整備する」(36.1%)に続き、「避難時の生命安全・維持装置を確保する」(31.6%)も多くなっている。

災害に備えて必要と思う対策(複数回答)

【身体障害者】全体 n=2,064



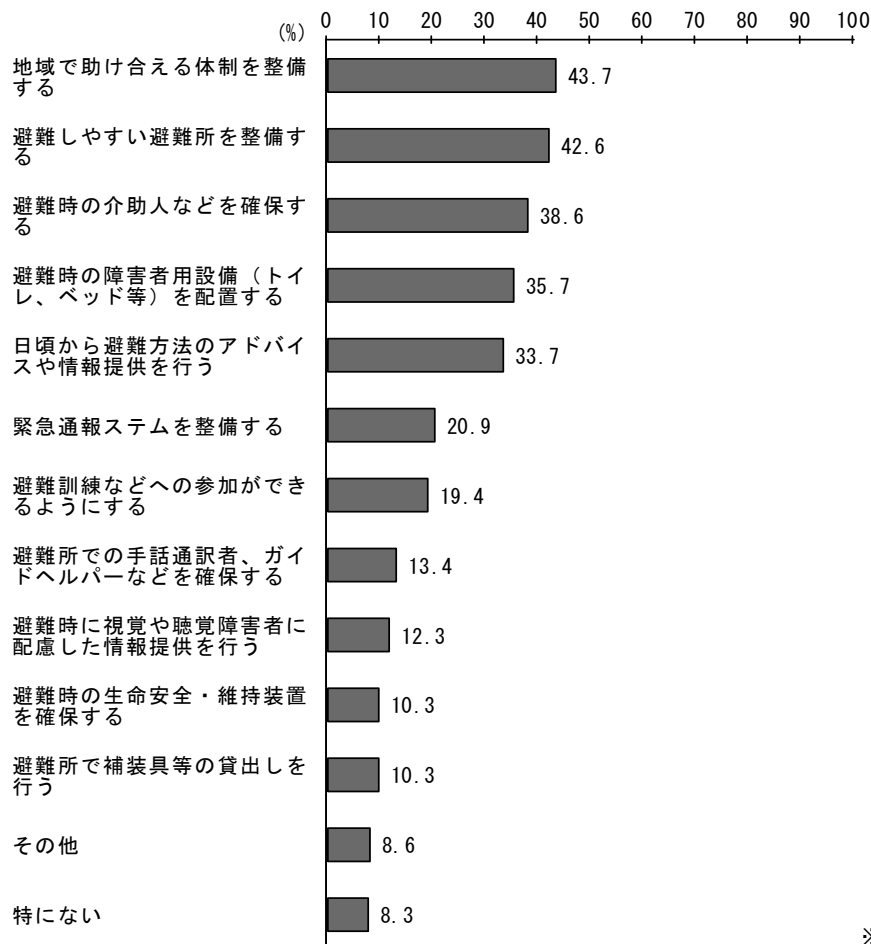
問7 障害者手帳に記載された障害の種類 1番目	n	対策												
		1	6	5	3	9	4	7	8	11	10	2	12	13
0 全体	2,064	38.5	36.4	29.2	28.6	28.2	24.1	18.5	18.0	16.6	11.4	9.7	3.6	6.2
1 視覚障害	133	39.1	29.3	29.3	24.1	36.1	26.3	12.0	54.9	16.5	24.1	12.0	3.8	6.0
2 聴覚障害	158	30.4	19.0	25.3	28.5	16.5	25.3	8.9	49.4	20.9	29.7	16.5	2.5	5.7
3 平衡機能障害	26	57.7	26.9	42.3	26.9	38.5	30.8	11.5	11.5	11.5	7.7	7.7	0.0	7.7
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	41	22.0	31.7	22.0	17.1	36.6	14.6	9.8	19.5	14.6	7.3	2.4	9.8	2.4
5 肢体不自由(上肢・下肢)	723	40.4	45.9	30.8	31.0	32.4	26.7	12.6	13.0	17.4	9.1	8.3	2.5	6.4
6 肢体不自由(体幹)	215	43.7	51.2	33.0	26.0	44.7	20.0	17.2	14.4	19.5	11.2	7.9	7.0	4.2
7 内部障害	601	36.1	27.0	27.6	27.8	18.5	24.3	31.6	10.8	14.5	7.5	9.8	3.8	7.2
8 その他	59	45.8	42.4	30.5	33.9	27.1	15.3	8.5	11.9	16.9	11.9	8.5	5.1	6.8

知的障害者では、「地域で助け合える体制を整備する」ことをあげる人が 43.7%と最も多く、次いで「避難しやすい避難場所を整備する」(42.6%)、「避難時の介助人などを確保する」(38.6%)と続いている。

障害の程度別でみると、最重度・重度(1・2度)では「避難時の介助人などを確保する」が最も多く、「避難時の障害者用設備を配置する」も次いで多い。

災害に備えて必要と思う対策(複数回答)

【知的障害者】全体 n=350

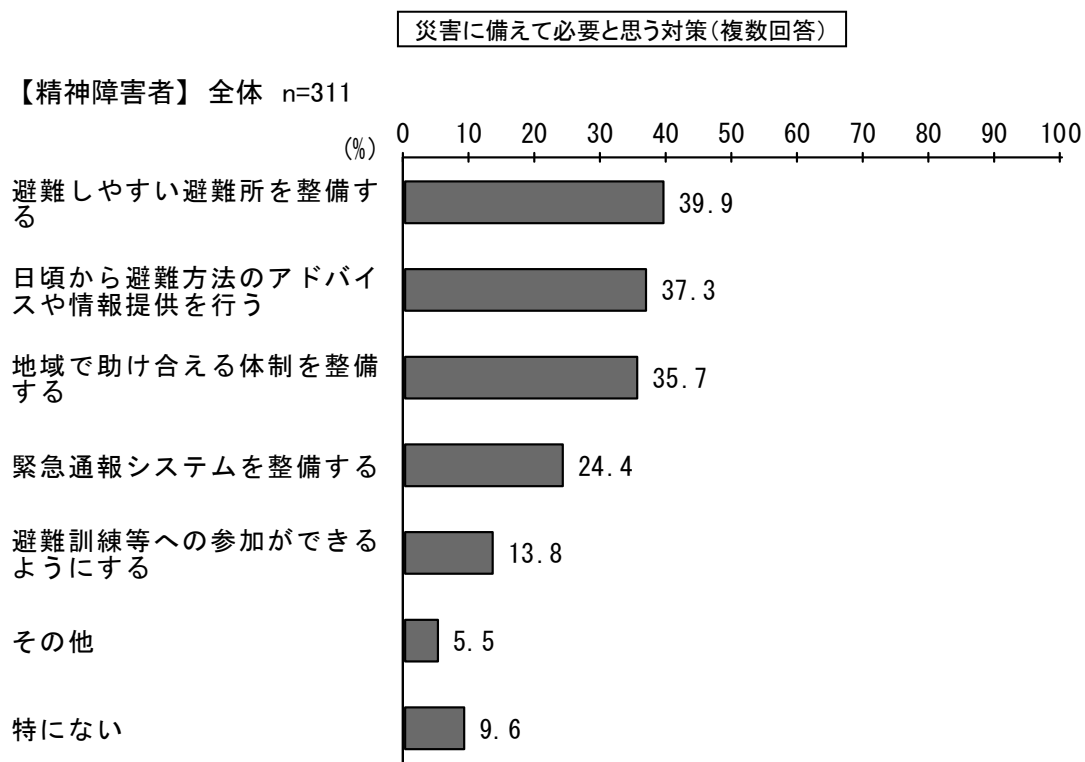


※無回答は省略

* 問6 障害の程度	n	5	1	9	6	3	4	2	10	8	7	11	12	13
		備する	地域で助け合える体制を整備する	避難しやすい避難場所を整備する	避難時の介助人などを確保する	避難時の障害者用設備(トイレ、ベッド等)を配置する	避難時の障害者用設備(トイレ、ベッド等)を配置する	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	緊急通報システムを整備する	避難訓練などへの参加ができるようにする	避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する	避難時に視覚や聴覚障害者に配慮した情報提供を行う	避難時の生命安全・維持装置を確保する	避難所で補装具等の貸出しを行う
0 全体	350	43.7	42.6	38.6	35.7	33.7	20.9	19.4	13.4	12.3	10.3	10.3	8.6	8.3
1 最重度・重度(1・2度)	129	48.1	52.7	58.9	57.4	29.5	20.9	20.9	14.7	13.2	11.6	12.4	14.7	3.1
2 中度(3度)	77	45.5	39.0	32.5	29.9	33.8	20.8	23.4	11.7	9.1	7.8	9.1	5.2	6.5
3 軽度(4度)	136	39.7	35.3	22.8	19.1	36.8	19.9	16.2	12.5	13.2	9.6	8.1	5.1	13.2

精神障害者では、「避難しやすい避難場所を整備する」ことをあげる人が 39.9%と最も多く、次いで「日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う」(37.3%)、「地域で助け合える体制を整備する」(35.7%)と続いている。

障害の程度別にみると、1級と2級では「日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う」が最も多い。



※無回答は省略

		1	3	5	4	2	6	7	
		避難しやすい避難場所を整備する	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	地域で助け合える体制を整備する	緊急通報システムを整備する	避難訓練等への参加ができるようにする	その他	特にない	
* 問6 障害の程度	n								
0	全体	311	39.9	37.3	35.7	24.4	13.8	5.5	9.6
1	1級	38	23.7	31.6	31.6	21.1	5.3	5.3	10.5
2	2級	162	42.6	43.2	36.4	23.5	17.3	4.9	10.5
3	3級	101	42.6	31.7	35.6	29.7	11.9	5.0	8.9

(4) 消費者被害・トラブル等の被害経験・被害にあいそうになった経験（複数回答）

何らかの消費者被害にあった・あいそうになった割合は、身体障害者 14.5%、知的障害者 7.4% に対し、精神障害者では 30.9%と高い。

身体障害者では、「振り込め詐欺にあった(あいそうになった)」が 6.7%、「訪問販売で高額な商品(ふとん、呉服、栄養食品など)を買わされた(買わされそうになった)」が4.2%、「不当に高額あるいは unnecessaryな住宅リフォーム工事をされた(されそうになった)」が 2.6%である。

【消費者被害・トラブル等の被害にあった経験・あいそうになった経験】

		特に、被害トラブルにあったことはない	何らかの被害・トラブルにあったことがある						無回答
			不当に高額・ unnecessaryな住宅リフォーム工事をされた(されそうになった)	訪問販売で、高額な商品を買わされた(買わされそうになった)	支払い能力を超える債務を負担させられた(させられそうになった)	知らないあいだに借金の保証人にされていた	振り込め詐欺にあった(あいそうになった)	その他	
身体障害者	(n=2,064)	67.7% (1,398 人)	14.5% (300 人)						17.7% (366 人)
			2.6% (53 人)	4.2% (86 人)	0.3% (7 人)	0.1% (2 人)	6.7% (138 人)	2.9% (60 人)	

知的障害者では、「訪問販売で高額な商品(ふとん、呉服、栄養食品など)を買わされた(買わされそうになった)」が 1.4%である。

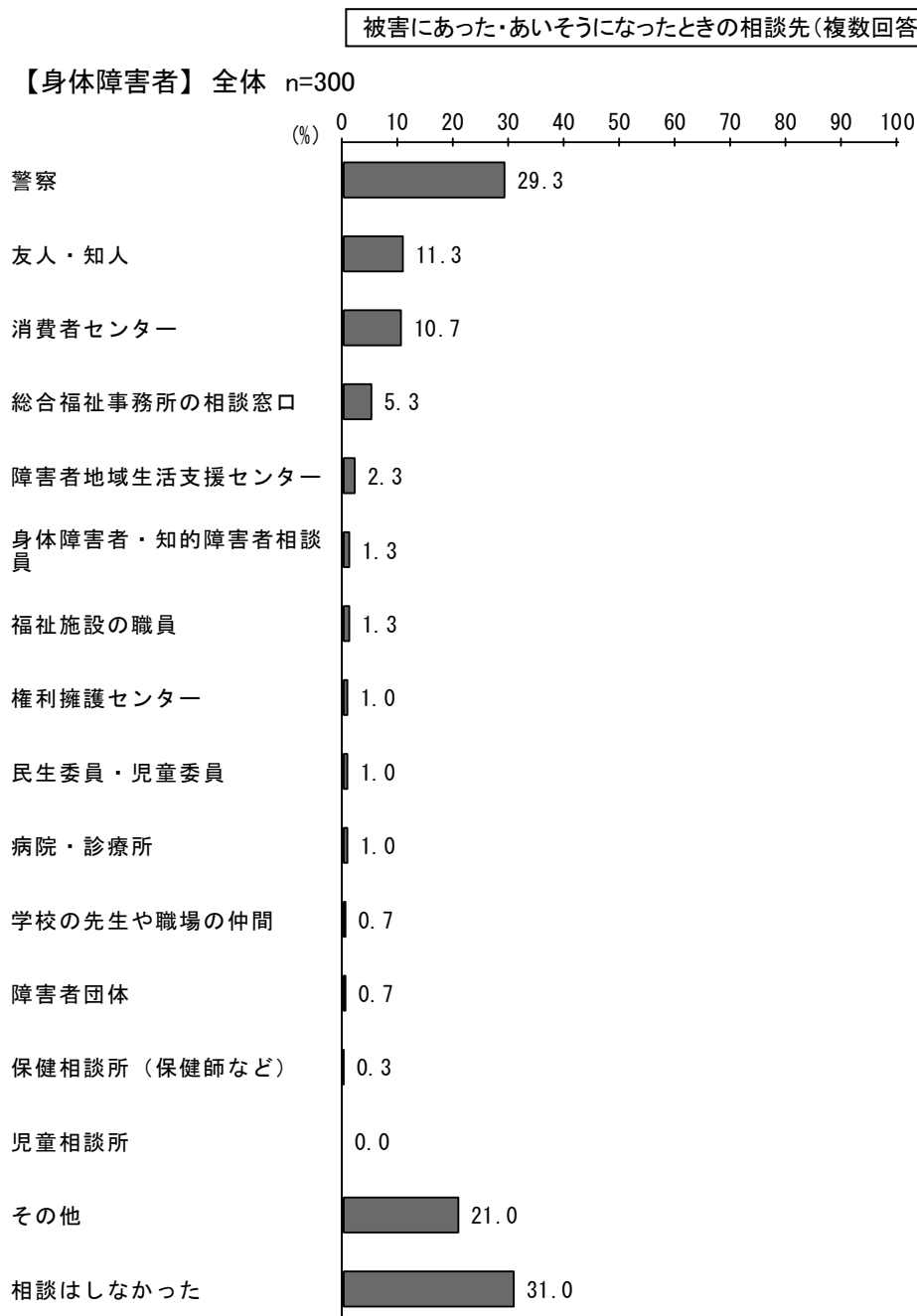
精神障害者では、「訪問販売で高額な商品(ふとん、呉服、栄養食品など)を買わされた(買わされそうになった)」が 10.0%、「振り込め詐欺にあった(あいそうになった)」が 9.0%、「不当に高額あるいは unnecessaryな住宅リフォーム工事をされた(されそうになった)」が 5.1%である。

		特に、被害トラブルにあったことはない	何らかの被害・トラブルにあったことがある						無回答
			不当に高額・ unnecessaryな住宅リフォーム工事をされた(されそうになった)	訪問販売で、高額な商品を買わされた(買わされそうになった)	支払い能力を超える債務を負担させられた(させられそうになった)	知らないあいだに借金の保証人にされていた	振り込め詐欺にあった(あいそうになった)	その他	
知的障害者	(n=350)	78.6% (275 人)	7.4% (26 人)						14.0% (49 人)
			1.1% (4 人)	1.4% (5 人)	0.6% (2 人)	—	1.4% (5 人)	3.1% (11 人)	
精神障害者	(n=311)	57.9% (180 人)	30.9% (96 人)						11.3% (35 人)
			5.1% (16 人)	10.0% (31 人)	3.9% (12 人)	—	9.0% (28 人)	8.0% (25 人)	

(5) 被害にあった・あいそうになったときの相談先（複数回答）

何らかの消費者被害にあった・あいそうになったときの相談先としては、いずれの障害でも「警察」が最も多い。また、「相談はしなかった」人も2～3割みられる。

身体障害者では、「警察」が 29.3%と最も多く、次いで「友人・知人」(11.3%)、「消費者センター」(10.7%)である。一方、31.0%の人は「相談はしなかった」としている。

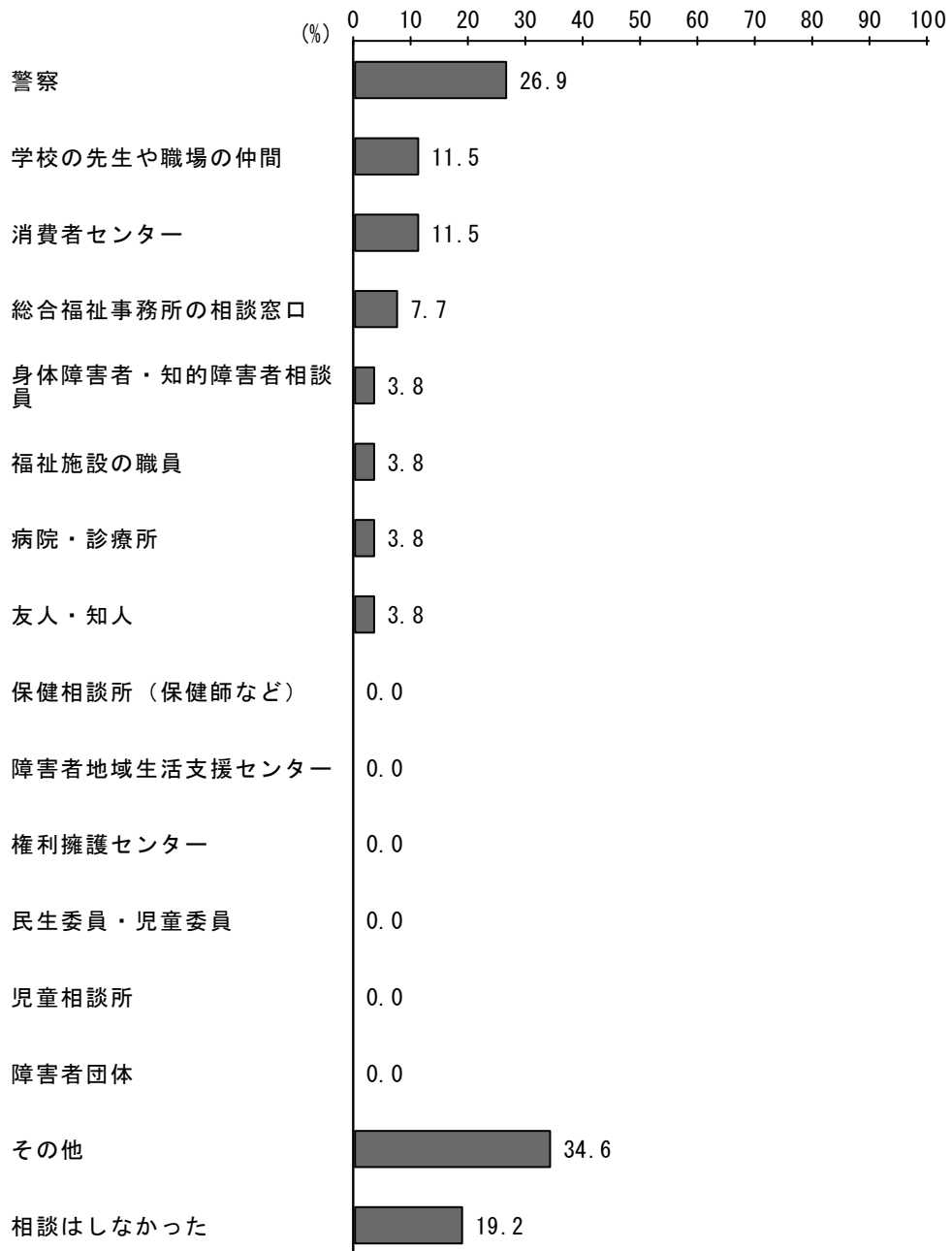


※無回答は省略

知的障害者では、「警察」が 26.9%と最も多く、次いで「学校の先生や職場の仲間」(11.5%)、「消費者センター」(11.5%)である。19.2%の人は「相談はしなかった」としている。

被害にあった・あいそようになったときの相談先(複数回答)

【知的障害者】 全体 n=26

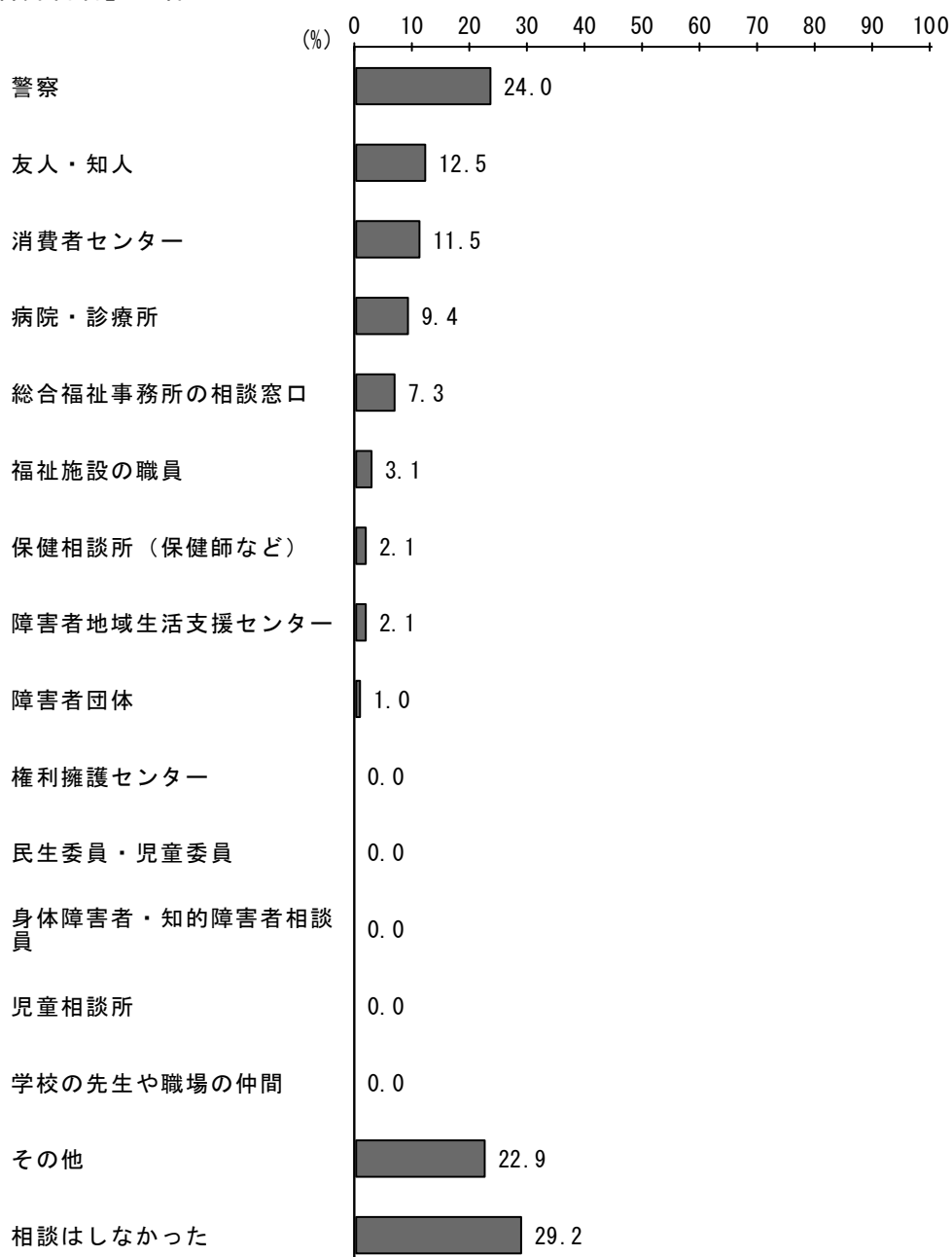


※無回答は省略

精神障害者では、「警察」が 24.0%と最も多く、次いで「友人・知人」(12.5%)、「消費者センター」(11.5%)である。29.2%の人は「相談はしなかった」としている。

被害にあった・あいそようになったときの相談先(複数回答)

【精神障害者】全体 n=96



※無回答は省略